

「総代幹部研修会開催される」



6月2日、平成26年度の総代幹部研修会が熱田神宮会館において県神社庁・県神社総代会の共催で開催された。当日は県内より140名の参加があった。熱田神宮を正式参拝後、開講式では牧野武彦副庁長が冒頭「日頃は神宮大麻頒布にご尽力いただき、感謝申し上げます」と謝辞を述べ「それぞれの地域には神社があり、地域ごとの『おらが地域の神様』をお祀り申し上げている。それは何百年、何千年と祈りが続けられおり、祈りの結晶が『祭り』であり、『祭り』を通じて地域での絆を深めてきた。今日、地域崩壊が叫ばれるなか、神社の役割が今後益々重要となっている。その点を心に留めてご奉仕いただき、実りある1日にしていただきたい」と挨拶された。引き続き県神社総代会副会長大森一人氏より「昨年の神宮式年遷宮では氏子各位のご努力により多大なる奉賛金を納めることができた。日頃の神宮、神社への敬神の念が重なった結果であるとお礼申し上げます。今日の研修成果が地域や神社に貢献できるものになることを期待したい」との挨拶があった。



午前の研修として「神社振興対策について」と題して、成海神社宮司亀垣昌一氏が講演。氏は現在、神社本庁の第13期神社振興対策指定神社として教化実践をされている立場から、神社振興のあり方について講演され、お神楽後継者育成、行政との関係など具体例を示しながら講義された。次いで午後の講演と関連するDVD「神が降りた森で—春日大社—祈りの記録」上映の後、全員で鑑賞した。

昼食後は、春日大社権宮司である岡本彰夫氏から「春日大社式年造替について」と題して講演があった。氏は「遷宮」と「造替」の相違、春日大社における「造替」の意義等について、自身の立場を踏まえて興味深く述べられた。特に20年サイクルで遷宮、あるいは造替がされているのは、次世代へ技術を語り継ぐための優れた人材育成として極めて意義あるものと述べられた。講演後、参加者から質問もなされ、盛会のうちに講演が終了した。

最後に受講者を代表して修了証が名古屋市東区総代会山内嘉一氏に手渡され、三浦正典教化委員長が「昨年よりも多くの方々に参加していただいたことに感謝申し上げます」と挨拶があり、研修を終えた。